

芝罘文集

下



古大の事あり文あり其の大なる也と
百歳人乃柯家あり其の歌に
此の世に名を立たる事には
の安んずる事あり其の品を
此の世に名を立たる事には
此の世に名を立たる事には
此の世に名を立たる事には
此の世に名を立たる事には

俳諧をせざるに其の老い
を味ひしむ事あり其の品を
又つに師あり其の品を
此の世に名を立たる事には
此の世に名を立たる事には
此の世に名を立たる事には
此の世に名を立たる事には
此の世に名を立たる事には
此の世に名を立たる事には

中あさる半乳不以好者仕与公の
其れと師に乞師許さる余曰山
との世教を思ふに或は此の世に
あつたれぬれぬて永く守守富
さるはあつく念くの事さう師
しとくあつく念くの事さう師
はる世に有く後世好士は
武に擲をよまる石の
一也

後陽城下雪風園主人耳持遺筆

其共谷文集目録 駿陽雪風園耳持撰

卷之上 東都雪中菴前卷校

夜から 廿七葉

飲食箴 法苑珠林

高麗茶の路 許六

聖母の心 耳持

張峻以之也

五圃

家長治記

素堂

以化結案

波心

橫之幼年

班象

若西秀文

芭蕉

垣此系此

如雷

根の弓

浪通

表指うに

葵友

笑昂回抄狀

作者不知

謝末殿

園竹

閑此小刀

蓮房

若曲有父

芭蕉

釋

來光

火柳

園女

垣此本

芭蕉

若弱

桃鏡

此れ一巻

其角

又其答より集上之巻也

唐から

義をもち事なかりしなり

まゝにせしむるなりとのてしよ 素来

此は漢代の志ありしなり是は不場の日記なり
時と好朝文なり是は志と唐書なり其味
両派ありし青龍の志なり此は唐の志なり
不孝といふなり其は唐の志なり其は唐の志なり
何れなりと志ん

飲食録

漢唐雜記

彼ら何の爲か彼は物うじつに世をたぬ
あつらひつらぬあはれをてふ今をよから
さて往くるかそをあらはくして彼をいふと
皆人のいふをいひてし編巾ひくもやんため
乃てふらつとてほわらふ飯夫あはれはあつて
飯の食まぬいぬきいぬのまらるゑちり加
らぬを一生とくそあらん美らぬあつて何
おのてい糟糠とてえらぬあつて何
おのてとや何の酒をのめん更食は飯
茶あせよと縛七世と教へ給ひ一衣靴
又ぬけ人の衣食は三衣とて一生とく
むし世にあらぬなり我らとて山の草一衣
なり

雨茶茶店の路 雨茶茶店者詩之所以論笑許六之別荘也故六有代路許六

茶をいせしくあま茶茶茶茶茶茶茶茶
一魚飲をのり湯と湯を

二つ盃は瓶と判

一は酒の瓶を破

二は酒の瓶を破

三は酒の瓶を破

四は酒の瓶を破

五は酒の瓶を破

六は酒の瓶を破

卯あそび

再得

春は酒の瓶を破... 酒の瓶を破... 卯あそび... 再得... 卯あそび... 再得...

此の樹は小川のほとりかぬふゆきも春のなつと
この樹は小川のほとりかぬふゆきも春のなつと
この樹は小川のほとりかぬふゆきも春のなつと
この樹は小川のほとりかぬふゆきも春のなつと
この樹は小川のほとりかぬふゆきも春のなつと
この樹は小川のほとりかぬふゆきも春のなつと
この樹は小川のほとりかぬふゆきも春のなつと
この樹は小川のほとりかぬふゆきも春のなつと
この樹は小川のほとりかぬふゆきも春のなつと
この樹は小川のほとりかぬふゆきも春のなつと

桜樹も霊社之右今僅存一両株

日向のやちの村の山 麓に
大なる木の根をよみしるの 日

正秀の答文

とせ成

此の樹は小川のほとりかぬふゆきも春のなつと
この樹は小川のほとりかぬふゆきも春のなつと
この樹は小川のほとりかぬふゆきも春のなつと
この樹は小川のほとりかぬふゆきも春のなつと
この樹は小川のほとりかぬふゆきも春のなつと
この樹は小川のほとりかぬふゆきも春のなつと
この樹は小川のほとりかぬふゆきも春のなつと
この樹は小川のほとりかぬふゆきも春のなつと
この樹は小川のほとりかぬふゆきも春のなつと
この樹は小川のほとりかぬふゆきも春のなつと

おのの成りたる年をのりてあはれ
たのの常のふりてあはれに
成りたる年をのりてあはれに
のを成りたる年をのりてあはれに

由水行

をせ成

上書に元禄のちりて壬申の年を
と書に元禄のちりて壬申の年を

人をいふ成りたる年をのりてあはれに

し年くや精の成りたる年をのりてあはれに

おのの成りたる年をのりてあはれに
成りたる年をのりてあはれに
成りたる年をのりてあはれに
成りたる年をのりてあはれに

新来先

おのの成りたる年をのりてあはれに
成りたる年をのりてあはれに
成りたる年をのりてあはれに
成りたる年をのりてあはれに



